

予 算 要 求 資 料

令和4年度当初予算 支出科目 款：民生費 項：児童福祉費 目：家庭児童福祉費

事業名 オレンジリボン・キャンペーン事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

健康福祉部 子ども・女性局 子ども家庭課 児童養護第一係

電話番号：058-272-1111 (内 2679)

E-mail：c11217@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 3,000 千円 (前年度予算額：1,500 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	1,500	750	0	0	0	0	0	0	750
要求額	3,000	1,500	0	0	0	0	0	0	1,500
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

令和2年度の子ども相談センターによる児童虐待相談対応件数は2,268件にのぼった。家庭や学校、地域など社会全般にわたり児童虐待問題に対する深い関心と理解を醸成するため、「児童虐待防止推進月間」である11月を中心にして、児童虐待防止のための広報・啓発活動を実施する。

(2) 事業内容

1. 児童虐待防止啓発イベントの実施

親子の集客力が見込まれる会場を利用し、児童虐待防止について親子に向けて啓発できる参加型イベントや児童虐待防止講演会等の開催、県内全域をリレー会場としたオレンジリボンたすきリレーのゴールイベント同時開催等により、児童虐待防止の防止とその問題に対する理解を呼び掛ける。

2. 児童虐待防止啓発資材の製作

家庭や学校、地域など社会全般にわたり児童虐待問題に対する深い関心と理解を醸成するため、街頭啓発活動、協力団体、学校等において幅広く配布・活用できる啓発資材を作成する。

(3) 県負担・補助率の考え方

県 1/2 国庫 1/2

(児童虐待・DV対策等総合支援事業費国庫補助金)

(4) 類似事業の有無：無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
委託料	2,950	① 児童虐待防止講演会 1,290
		② 啓発活動・資材作成 1,660 (県内小中高校生への相談窓口広報等)
報償費	50	児童虐待防止講演会 講師報償費
合計	3,000	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

国においては11月を「児童虐待防止推進月間」と位置付け、集中的な広報啓発活動を行っており、各地方自治体においても同様のキャンペーン事業を実施している。

(2) 国・他県の状況

毎年度、同様の事業を継続し、啓発活動を広めていく必要がある。

(3) 事業主体及びその妥当性

事業主体：県 委託先：広報啓発事業を実施する事業者

児童福祉の実現、及び児童虐待防止は県の責務であり、そのために必要不可欠な広報啓発活動を行う。相談通告先や児童虐待防止についての知識等の広報啓発を専門性と創造性を有する事業者に委託して実施する。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・児童虐待防止を目指す県民運動である「ぎふオレンジリボン運動」の趣旨について、幅広い県民が理解し、地域での「虐待を未然に防止できる社会づくり」への機運を高める。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	推移	H27年度	R3年度	R4年度	終期目標 (R)	達成率
		実績	目標	目標		
県政モニターアンケートにおける認知度	16.5% (H24 県政世論調査)	23.4% (H27)	30.0%	30.0%	/	78%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	(1) 児童虐待防止啓発イベントの実施 11月に清流の国ぎふオレンジリボン児童虐待防止講演会を開催するとともに、各子ども相談センターにおいて街頭啓発を実施。 (2) 児童虐待防止啓発資材の製作 啓発用リーフレット等を作成し各圏域にて配布。
令和3年度	令和5年度当初予算にて追加 <hr/> 指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%
令和4年度	令和6年度当初予算にて追加 <hr/> 指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・事業の必要性（社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断） 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</p>	
(評価) 3	<p>児童虐待に関する社会的な関心は高く、重篤な事例はマスコミ報道されることが多い。児童虐待相談対応件数は全国的にも、また県においても年々増加していることから、虐待防止を呼びかける「オレンジリボン運動」を浸透させる必要性は高い。</p>
<p>・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない</p>	
(評価) 2	<p>児童虐待に関する近隣知人からの通報件数は増えており、意識は高まっていると見られる。また、親子に対する周知活動により、イメージの向上につながっている。</p>
<p>・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</p>	
(評価) 2	<p>事業の見直しを行い、啓発効果の高い事業へ集約を行うことで経費の節減を図っている（H24年度 39,986千円→R元年度 3,155千円）。</p>

(今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項</p> <p>虐待の通報についての意識は高まっていると思われるが、地域社会の力により未然に虐待を防止することへの啓発がさらに必要である。</p>

(次年度の方向性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか</p> <p>今後は若年層や子育て世代に向け、オレンジリボン運動のポジティブなメッセージ（虐待を未然に防ぐために、自分たちができること等）を伝えていくための広報啓発を実施していく。</p>

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課</p>	【〇〇課】
<p>組み合わせる理由や期待する効果 など</p>	